

民生委員・児童委員の活動にご協力を

〜広げよう 地域に根ざした 思いやり〜



困ったときの身近な相談者 まちの民生委員・児童委員

民生委員・児童委員は、日々の暮らしの中で困ったり悩んだりしたことを相談できる相手のひとりです。地域住民の一員として皆さんと一緒に生活しながら、皆さんと同じ立場で相談のり、必要であれば福祉や専門の相談機関へつなぐお手伝いをしています。

民生委員・児童委員の具体的な活動

- 高齢者や障害のある方の福祉に関すること、子育てなどの不安に関するさまざまな相談を受け、専門の相談機関へ繋ぐお手伝いをしています。
- 一人暮らしの高齢者への声かけ・安否確認などの見守り活動や健康状態や世帯状況などの調査をしています。
- 福祉に関する情報提供や関係行政機関などへの連絡調整をしています。
- 社会福祉協議会やボランティア

三ツ石町を担当している中川美喜子さんに民生委員・児童委員の活動についてお話を伺いました。

地域で支え合い、安心して住み続けることができる地域社会づくり

「おはようございます。」
登校する子ども達への声掛けから私の民生委員・児童委員活動の朝が始まります。平成25年4月に小方ヶ丘に小方学園が開校し、子どもたちは三ツ石中央公園に集まり集団登校しています。毎朝私の声掛けに配慮してくれる子ども達の笑顔に、なぜかほっとし、励まされ、私の元気の素となっています。今では子どもたちが授業参観や運動会へのお誘いをしてくれます。私はこれからも子どもたちを温かく見守っていこうと思っています。

私の住む三ツ石町は、野山に囲まれ自然豊かな地域です。365人の住民のうち一人暮らしの方も多く、高齢過疎化が進んでいる地域のひとつと言っています。

そんな地域の状況を少しでも改善しようと、自治会ではシニアクラブをはじめ各部の協力で、春秋のレクリエーション、夏の納涼祭、グラウンドゴルフ大会、筋トレ教室、ホテル会、乗り合いタクシーの利用促進などを積極的に呼びかけ、地域の絆づくりをしています。



民生委員・児童委員の活動のやりがいを感じ、生き生きと語ってくださった、中川さん。

困ったときはここに相談 市消費生活センター

問い合わせ 消費生活センター ☎07323236

VOI・24

今冬は節電志向により燃焼式暖房機の使用機会が増えることが予想されます。

特に次のような事故に注意しましょう。

電気ストーブにふとんが触れて火災

事例 住宅から出火して全焼し、1人が死亡した。
(平成21年3月 千葉県)

原因 ⚠

電気ストーブをつけたまま就寝したため、ふとんがヒーターに触れて火が付き出火したものです。
寝るときは必ず電源スイッチを切りましょう。また、カーテンなどの燃えやすいものを近くに置かないでください。洗濯物を乾かしたことが原因による火災事故も多く発生しています。

調理中にカセットボンベが爆発

事例 カセットコンロで調理中、コンロのカセットボンベが爆発して2人がやけどを負った。
(平成21年11月 福井県)



Part 2

原因 ⚠

五徳を収納したまま使用していたため、フライパンの底とコンロが接触状態になって加熱され、コンロ全体が過熱してボンベが破裂したものです。

カセットボンベは、正しく装着してください。五徳が裏返しになっていないかを確認してください。

カセットコンロは2台並べて使用しないでください。また、コンロを覆うような大きな鍋や鉄板などは使用しないでください。

電子レンジ加熱式ゆたんぼが破裂してやけど

事例 電子レンジ加熱式ゆたんぼを加熱していたら、ゆたんぼが膨らんできたためあわてて電子レンジの扉を開けると、ゆたんぼが破裂して内容物が飛び散り、顔面にやけどを負った。
(平成21年3月 熊本県)

原因 ⚠

オート加熱機能を禁止する表示がありました。袋が膨張、あるいは内容物が漏れ出した場合、電子レンジのスイッチを切り十分に時間を置いて冷めたことを確認してから扉を開けてください。ガスコンロや電磁調理器で直接加熱するタイプの金属製ゆたんぼは、必ず口金（キャップ）を外して加熱してください。

取り扱い表示の使用方法を必ず守ってください。袋が膨張、あるいは内容物が漏れ出した場合、電子レンジのスイッチを切り十分に時間を置いて冷めたことを確認してから扉を開けてください。ガスコンロや電磁調理器で直接加熱するタイプの金属製ゆたんぼは、必ず口金（キャップ）を外して加熱してください。

ゆたんぼで低温やけど

事例 ゆたんぼで低温やけどを負った。
(平成21年12月 京都府)

原因 ⚠

長時間ゆたんぼを使っていたため低温やけどに至ったものです。

低温やけどはこたつなどのほか、使い捨てカイロなどでも発生します。同じ部位を長時間温めないでください。また、違和感や熱いと感じたら直ちに使用を中止してください。

厚手のタオルなどで包んでも低温やけどを負うこともあります。ゆたんぼは就寝前にふとんの中に入れて、温まったら出して、電気あんかはスイッチを切ってください。
(製品評価技術基盤機構パンフレットより)

注意！服に火が燃え移ってやけど

消費者シリーズ No.174
問い合わせ 消費生活センター ☎07323236

ガスコンロの火を消そうとしたとき、肩から羽織っていたポリエステル製のカーディガンの袖に火が燃え移った。袖の火はすぐに手で消したが、いつのまにか後ろまで火が回っていて、背中をやけどした。

仏壇の電球を替えていたときに、ろうそくの火が洋服に燃え移った。自分で水をかけ火を消したが、おなかやももにやけどを負い、入院した。
(70歳代 女性)

【アドバイス】

ガスコンロなどの火が衣類に着火してやけどをしたという報告が寄せられています。特に高齢者は重症になる場合も多く注意が必要です。調理などで火を使うときは、袖やすそが広がっている衣類やルーズなデザインの服装は避け、火に近づき過ぎないようにしましょう。防火性能のあるエプロンやアームカバーなどを身に着けるのも一つの方法です。服に火がついたときは、台所のくみ置きなど身近な水で消火しましょう。慌てて走り出すと風に煽られて炎が大きくなるので注意が必要です。
(国民生活センター発行「見守り新鮮情報」1700号より)